

## 第 14 回きぼう利用推進有識者委員会 議事要旨

1. 日時: 2021年10月25日(月)13:00~15:00

2. 場所: Microsoft Teams会議/JAXA東京事務所会議室/筑波宇宙センター会議室

### 3. 出席者

(1) 委員: 永井委員長、山本副委員長、浅島委員、岡町委員、奥村委員、佐宗委員、種家委員、西島委員、丹羽委員、浜崎委員

(2) JAXA/事務局: 佐々木宏、川崎一義、小川志保、白川正輝、館下博昭、加藤充康 他

### 4. 議事要旨

長期的視点での「きぼう」利用事業の進め方、地球低軌道利用事業に向けた構想について各委員よりご意見を頂き、今後さらに検討を進めることとなった。主な議論及びご意見は以下のとおり。

#### (1)ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況について(報告)

- ISS・地球低軌道の活動に係る米国民間企業や国内企業の動向、JAXA 宇宙飛行士/民間宇宙飛行の活動等について報告があった。国内の民間企業の米国企業との連携の状況、民間飛行士の受入れによる利用への影響や宇宙機関側の収益面に関する質疑応答がなされた。

#### (2)Post ISSにおける地球低軌道利用事業に向けた構想検討の着手について(討議)

- 継続的な地球低軌道(LEO)利用の実現に向けた民間主体の事業構想、JAXA-民間の共創活動の実施案について説明があり、討議がなされた。
- 民間企業によるLEO利用事業に向けた今後の検討のポイントとして、民間サービス提供企業と民間利用者間の契約形態、知財/秘密保持、経費面や制約・リスク・意思決定権の所在、範囲の明確化、参入する企業の収益性等が挙げられた。これまでのヘビーユーザーや非宇宙産業の企業の意見を充分に聞くこと、JAXAによる支援の明確化、これまでにないアイデアを引き出せる可能性があるが、その独自性・新規性を守る情報管理が重要とのご意見があった。
- 事業化では企業の参入を促す魅力あるISS/「きぼう」利用成果を企業や一般の方へ引き続き提示していくことが重要である、ビジネスとしての成立性も重要であるが、実験棟としての「きぼう」の存在意義が失われないよう基礎研究への支援継続が必要である旨ご意見があった。

#### (3)「きぼう」利用事業の検討状況 (報告)

- 技術実証利用の現状、新たな船内科学利用テーマ募集方針及び船内実験用ラックの長期利用計画の検討状況について報告があった。
- 船内科学利用テーマ募集「フラグシップミッション」が目指す“極めてインパクトの高い成果”においては、何を“インパクト”とするか、科学成果だけでなく、収益性インパクトも含まれる、高いインパクトを目指すためには資金的な支援・メリハリも必要、受け身ではなく発掘や目利きが重要であり、学術的成果、社会課題への貢献、最終的なビジネスインパクト等の観点を考慮しつつ検討を進める必要がある等のご意見があった。また、専門家等多方面からの情報収集による課題発掘、研究資金支援、広報活動の重要性についてご意見があった。

#### (4)前回のご意見への対応状況について(報告)

- 前回委員会での委員からご意見に対する「きぼう」利用事業における取組み、達成目標・指標について報告があった。国の課題解決については、社会課題解決を明確にすべき、JAXAと民間双方が資源を出し合う形での共同研究、科学研究での継続利用、「きぼう」やJAXAの果たす役割についてより長期的視点を持った検討が重要である等のご意見があった。

以上